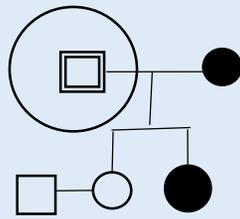


腰椎圧迫骨折後に回復期リハビリ病棟を利用し退院支援した事例

家族構成



概要

＜本人＞ 90歳代男性 要介護2 A1・IIb
第2腰椎圧迫骨折、高血圧
15年前に次女死去後、独居。 趣味:将棋

＜キーパーソン＞ 長女 60歳代 日中就労あり。
3日に1回は本人宅を訪問し、買物や洗濯、薬カレンダーへ配薬。Aクリニックへ通院送迎を担っていた。

支援のきっかけ

○トイレで転倒し動けなくなっていた本人をヘルパーが訪問時に発見し、長女へ連絡。Aクリニック診察結果、腰椎圧迫骨折が疑われ、当院受診を案内される。同日、当院受診し、第2腰椎圧迫骨折の診断。治療、リハビリ目的にて回復期リハビリテーション病棟に入院となる。

《入院前の生活状況・課題》

入浴目的でデイサービス週2回、調理目的でヘルパー週1回、夕食のみ配食サービス利用。

- ・長女のレスパイト目的でショートステイを利用していたこともあったが、人見知りのため利用拒否あり。長女の負担が大きくなっていた。
- ・1ヶ月前に肺炎で入院。退院後は筋力低下もあり、自宅で転倒を繰り返していた。
- ・夜間の排泄は間に合わず、失禁する事あり。高血圧に対する薬の飲み忘れがあった。

支援内容

《本人のニーズ》…『住み慣れた自分の家で一人でゆっくりと過ごしたい。』

《家族のニーズ》…『退院後に転倒や失禁が増え、介護負担が増えており、施設入所を検討したい。』

＜支援計画＞

○独居生活継続の為、自宅環境に合わせた、歩行形態の獲得。生活課題に応じた在宅サービスの見直し。

入院～30日目 ○本人・長女に退院先の生活設定について確認。両者に相違が見受けられ、それぞれに心理的支援を開始。

○生活環境確認の為、リハビリスタッフが自宅訪問。居室からトイレまで離れていること、玄関の上がり框（3段）の昇降に介助量が多いことを確認。

○排泄時、下衣操作に介助が必要。夜間はオムツ内失禁。

○循環器機能、腰椎圧迫骨折を考慮しながら、筋肉や持久力トレーニングを実施。身体機能と日常生活動作改善目的にリハビリ開始。

30日～60日目 ○自宅環境に合わせ、キャスター付き歩行器を導入。玄関の上がり框に対し、手すりがあれば昇降可能と見立てる。

○排泄動作にて対するリハビリを実施。加えて尿量に合わせたパットの選定を行う。

○薬の飲み忘れに対して、薬カレンダーへの配薬に加えて、服薬を促す声かけに工夫を要した。

○退院前カンファレンス（1回目）実施…長女と担当ケアマネジャーへ現状報告、協議。本人『家に帰りたい、近所の友達と将棋を指したい。』在宅サービスの見直しの提案。

⇒・デイケア：循環器機能、骨折部に留意し、本人なりの日常生活を継続する為トレーニングを継続。

・ヘルパー：調理に加え、服薬の促し、パット交換について、長女と役割分担。

・ショートステイ：長女のレスパイト目的について、本人に説明、了承得る。

→長女『転倒の心配と失禁後の後始末が負担になっていた。介護サービスに頼めるところは協力してもらい、もう一度自宅退院を進めたい。』

60日～90日目 ○歩行・排泄動作の改善と玄関の手すりの設置。本人の居室をトイレに近い部屋に変更。

○退院前カンファレンス（2回目）を実施。

┌・退院後は引き続き、Aクリニックに通院。

└・本人・長女・ケアマネジャー・サービス提供事業所と連携し、趣味であった将棋を指すことも再開の予定を立てる。

効果

◆自宅での一人暮らしを継続することができた。

◆循環器機能、骨折に留意しながら、自宅での生活動作を見立てた反復練習を行い、身体機能の回復をみた。

◆本人・長女の気持ちを受容しつつ、ケアプランの提案を行い、ケアマネジャーをはじめ、サービス提供事業所に引継ぎすることができた。